

給食の時間における食に関する指導のあり方に関する研究 ～ミニ指導案と指導資料の活用を通して～

1. 主題設定の理由

学校における食育を推進させるためには、給食の時間に行なわれる指導を充実させることが欠かせない。給食の時間における指導は、実際に「見て」「食べる」という活動を通して日々繰り返し行うことができ、習慣化を図ることができるという大きな特長があるからである。

しかし、給食の時間の様子を見てみると、小学校高学年や中学生になっても、正しい食器の並べ方や箸の使い方ができない子どもも多く、食器を持たずに背中を丸めて食べるなど、食事のマナーが身につけていない。教科等における食に関する指導で、栄養バランスの良い食事を食べることの大切さについて学んでも、現実の食行動に生かされていないなどの課題もある。

そこで、本研究では、ミニ指導案・指導資料の活用を通して、子どもたちが食に関する正しい知識を楽しみながら興味を持って学び、望ましい食習慣を身につけていく場をつくる必要があると考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

- (1) 地区共通のミニ指導案・指導資料を用いて継続的に指導していけば、子どもたちの食に関する関心や理解を深めることができるであろう。
- (2) 子どもたちが興味を持って学べるような分かりやすい資料を用いることで、短時間でも自己の食生活をよりよくしていこうとする意欲や実践する力を高めることができるだろう。

3. 研究内容

- (1) 指導計画の修正及びミニ指導案・指導資料の作成・検討
- (2) 指導実践及び指導効果の分析

4. 結論

(1) 成果

- 給食の時間にミニ指導案・指導資料を用いて地区全体で継続指導したことは、子どもたちの食に関する関心や理解を深める上で有効であった。
- 5分間の指導であっても、自己の食生活をよりよくしていこうとする意欲や実践する力を高めることができる、ということが明らかになった。

(2) 課題

- 単発の短い指導の限界を踏まえ、今後どのように定着させていくかが課題である。
- 学級担任が負担に感じず気軽に実践できるような体制を整え、ミニ指導案・指導資料の共有化を図っていきたい。